

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

令和3年 4月 21日

国立大学法人茨城大学長 殿

所属・職名 人文社会科学部 教授

氏 名 田中 裕

下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。

サバティカル制度を
利用した期間

令和2年 4月 1日 ～ 令和3年 3月 31日

研究経過について

(利用期間を月単位
などに区分して、具体
的な研究経過を記入
して下さい。)

4月中は新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言下の中で受入先の方針に従い、在宅での各種手続き及び研究準備を中心に実施した。その上で、研究方針を確認し、年度内に一つの論文にまとめて博士論文として提出し審査を受けることを確認した。緊急事態宣言解除後の5月～6月にかけて、受入れ先の研究拠点を活用、図書館等を最大限に活用した文献探索と、必要な分析を加えた。その上で7月中旬にいったん論文にまとめ、9月にかけて予備審査により助言を受けながら課題を洗い出した。10月から12月には指摘内容を精査し、改めて研究をまとめ直し、加筆・修正を進めるとともに、受入れ機関のシステムに従い事務的チェックを受けながら、12月に印刷・製本を行い、一つの論文に完成させた。1月は審査資料及びデジタルデータの作成を行うとともに、公開審査に臨んだ。2月から3月には公開方法の検討を行い、WEBによる1万2千字の公表要旨を作成するとともに、論文を著書として公刊するための調整作業に着手した。また、これまで手がけてきた発掘調査報告書の刊行に従事し、予定の研究を終了した。

②研究成果について

(目標の達成状況及
び研究成果の公表予
定について記入して
下さい。)

サバティカル期間の研究テーマである「古墳時代の地域社会と交通に関する研究」について、論文「日本国家形成期の社会と交通システム」にまとめ、当初計画どおりの研究成果を得られた。論文はすでに審査機関となった受入れ先のシステムに従い、1万2千字の論文要旨がWEB公開されることになっているとともに、図書として公刊するための出版社も決定しており、令和3年度中を目標に刊行することとなっている。また、この研究テーマに付随して研究計画に記載した、城里町からの受託研究についても完遂し、文化財調査報告書を刊行した。主な研究成果の概要は、以下のとおりである。

本研究は日本列島における国家形成の前提となる広域的な組織化の特徴を探るため、古墳時代の地域社会についてその政治的・社会的単位の範囲や構造を把握したうえで、弥生時代末から古墳時代中期にかけてヤマト王権が各地域社会を束ねる際に、列島の東西を繋ぐ長距離交通システムが果たした役割について、考古学的に考究することを目的としたものである。その結果、4世紀以前には大型家畜、大型帆船、車を欠くため、朝鮮半島に依存する鉄等の必需物資を確保するためには、内水面を重視した「最大水路、最小陸路」の原則の範囲で長距離交通システムを構築する必要があり、初期のヤマト王権は西日本の瀬戸内海交通を安定させることを前提として、東日本に接続する陸越え点を独占的に掌握するとともに、最小限の陸越えを人力で行う実務者集団の保持や、祭祀・儀礼による信用創出により組織化に成功したとみられたが、5世紀になると、ヤマト王権は信用創出のための祭祀・儀礼を高度化するだけでなく、水上交通を維持しながら積極的に馬を導入し、駄馬利用により陸上交通の機能を著しく高めることにより、水上と陸上が無機的に組み合わせられた長距離交通を王権のもとに初めて可能にしたとという変化がみられ、この経緯が列島独自の広域的組織化に大きな影響を及ぼしたと結論できる。